



夏の雑草みたいなこの植物が 室町時代以前は一般的な衣料素材



街角の空き地に茂っている雑草の中に紛れているようなこの草は、日本では万葉の昔から「カラムシ」と呼ばれ、衣料素材として利用されてきた植物です。

現在でも衣料素材「麻」として使われており、家庭用品品質表示法では、正式な指定用語の「麻」の一種として、苧麻（チョマ）またはラミーという名称になっています。多くの衣料品の「麻」は、ヨーロッパ原産の「亜麻（リネン）」が使われていますが、苧麻は、色が白く絹の様な光沢があることから、涼感素材の「ラミーシャツ」などとして商品化されています。

写真は、神奈川県川崎市の麻生区役所の入り口近くに植えられているもので、区名の由来となった植物として紹介されています。綿はインド原産のもので、日本に入ってきたのは室町時代以降といわれていますから、それまでの日本人のほとんどの衣類は、この植物の茎から取れる繊維で作られていたのです。

ファッション
One Point
アドバイス

抜け感ブラウスが 夏のトップトレンド

ファッションビジネス業界の専門紙である織研新聞は、今年の春夏レディスヒット商品ランクを発表しました。ヒット商品トップは、「抜け感ブラウス」ということになりました。去年の春夏はノームコアカジュアル（究極にシンプルな自然体）というファッションが人気でしたが、今年は一変して、抜け感ブラウスや2位のスカーチョ（よりスカートに近いガウチョパンツ）、3位レースキャミソールなど、女性らしさを強調したものが主流となっています。



抜け感ブラウス 織研 plus の Web サイトより

「抜け感ブラウス」とは、前身頃は短く背中側が丸くふくらんだオーバーサイズの白シャツや、とろみ素材のスキッパー、V開きブラウスなどのことで、適度な肌見せで“いい女”を演出します。1位以外にも、3位のVネックのキャミソールやキャミドレスなど肌見せができるデザインが多くなっています。

HD NEWS 2016年7月31日(隔月)発行 第12巻第4号通巻68号

くらし応援ニュースレター

HOMEDRY NEWS

ホームドライニュース No. 68



繊維物語: 夏の雑草みたいな植物が一般的な衣料素材だったファッション・ワンポイント: 抜け感ブラウスが夏のトップトレンド クリップボックス・トピックス: 100年のファッションの変遷を… 衣生活の知恵: クローゼットに汚れた衣類はありませんか?

まごころクリーニング
ホームドライ **ホームドライ**
<http://homedry.or.tv/>

Clipbox Topics

100年のファッションの変遷を 2分38秒で理解できる

<https://www.mode.com/>

大量のファッション情報を提供しているサイトにアメリカのモード・メディア社 (Mode Media Corporation) があります。この会社の運営するホームページ「Mode」では、「レインウェアの知識」や「スカーフの巻き方」など、ファッションに関するあらゆることが楽しいビデオで紹介されています。

特にユニークなのが、ファッションに関係した色々なもの、例えばハンドバッグや帽子、ウェディングドレス、下着などの100年の変化をビデオにしたものです。インターネットのYouTube (ユーチューブ) でも、「100 Years of Fashion」で検索して見ることができます。

女性ファッションの100年の歴史 (100 Years of Fashion) をみると、まず始めに下着姿の女性モデルが登場し、スタッフが、髪型や衣装を年代ごとに変えていきます。最初は1915年、19世紀には女性の体をコルセットで締め上げていたものが、ソフトでドレスリーなファッションに変わるところから始まります。前半は、全体にフォーマルな感じですが、1965年になって突然ヒッピースタイルのカジュアルなファッションに変わってきます。しかし、1985年は、日本でもバブル経済だったように世界的にもゴージャスなパーティーファッション、経済低成長時の1995年はかわいい花柄のワンピース。

2005年にはブーツカットのジーンズでナチュラルなイメージ、そして2015年は、ダメージジーンズでワイルドで活動的になっていきます。

わずか2分38秒のビデオですが、100年間の間に社会や女性のライフスタイルと共にファッションが変化してきたことがわかります。



©Mode Media Corporation 2016 : 100 Years of Fashion



クローゼットに 汚れた衣類はありませんか？



汚れたままの衣類をクローゼットに放置しておくと、汚れ成分が暑い夏の気温と湿気で変質し、固着して取れにくくなってしまいます。また、徐々に酸化されて、変色や黄ばみの原因にもなります。

汗に含まれる塩分などの成分は、湿気を吸収する性質がありますから、衣類が湿っぽくなりカビやダニも繁殖しやすくなります。また、ウールなどの素材が多い冬物衣料は、高温とタンパク質繊維という条件から害虫による虫食いが発生しやすくなりますので、汚れた大切な衣類は残らずクリーニングに出して、通気性の良い状態で保管してください。